

S&Pがブラジルの格付けを引き下げ

2016年2月18日

<格下げ>

2月17日(現地)、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)がブラジルの自国通貨建て長期債務格付けを「BBB-」から「BB」に、外貨建て長期債務格付けを「BB+」から「BB」に引き下げました。また、格付け見通しは、引き続き「ネガティブ」としています。

各格付会社のブラジル長期債務格付け

(2016年2月18日時点)

	自国通貨建て	外貨建て	見通し
ムーディーズ	Baa3	Baa3	ネガティブ
S&P	BB	BB	ネガティブ
フィッチ	BB+	BB+	ネガティブ

(出所)各種データを基に大和投資信託作成

<格下げの理由>

S&Pは格下げの理由として、ブラジルが直面する政治や経済の課題は依然としてかなり大きいとして、調整プロセスはさらに長引く見込みであり、財政健全化が遅れ、経済は今後1年で大幅に縮小する見通しであると述べ、昨年9月の見直し時点からブラジルの信用力が一段と悪化したと説明しています。

<今後の見通し>

ブラジルは景気低迷と高インフレの中、財政の悪化が進行しています。政府と中央銀行は景気対策を後回しにして、財政健全化のための緊縮財政政策とインフレ沈静化のための高金利政策に優先的に取り組んできました。しかしながらルセフ大統領の支持率低迷が続く中、レビ前財務相に比べて拡張的な財政対策に前向きなバルボザ財務相の就任や、1月の金融政策決定会合で高インフレ下でも利上げを見送ったことにもみられるように、政府と中央銀行は軌道修正を始めました。一部の報道によると、政府は今年のプライマリーバランスの黒字目標値0.5%(対GDP(国内総生産)比)について、歳入見込みが不透明であることから、見直しを始めました。柔軟な財政目標により、レビ前財務相の緊縮政策に否定的だった議会からの抵抗が和らぎ、経済運営の手詰まり感が解消される期待感がある一方で、手綱が緩まりかねない政策運営は市場の信頼を損なう可能性もあり、政府や中央銀行の政策意図を市場が十分に消化するまでは、注意が必要と思われます。急激な市場の変動については、ブラジル中央銀行は通貨スワップなどによる米ドル売りリアル買い介入を、財務省は国債のバイバック(買い戻し)をそれぞれ必要に応じて実施し、市場安定化に努めることが期待されます。

以上

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>